



©うえもんくん

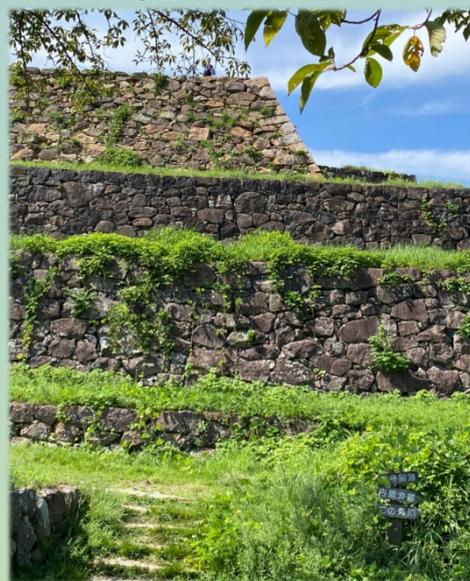
最強の城！米子城見学

今回の江美城新聞では、9月10日の江美城を探る会の講座として行われたフィールドワーク「米子城跡見学」の様子をご紹介します！

～立派な石垣が残る米子城～

米子城跡見学は、江美城を探る会の講師としてお世話になっている仲田先生の案内を受けながら二の丸からスタート！

番所郭まで上がると、段々になっている立派な石垣を見ることができます。



番所郭からさらに登っていくと米子城の本丸跡が見えてきます。

本丸には山陰唯一の二重天守があったとされています！※1

この二重天守は現在は残っていませんが、大小の「五重の天守」と「四重の副天守（四重櫓）」であったといわれています。※2

本丸見学の後、三の丸の横にある枡形を見ました。枡形は当時より深さが浅くなっているようですが、現在も形が残っています。



※1 参考文献 米子市経済部文化観光局 文化振興課編「国指定史跡 米子城跡 これからの米子城跡一史跡米子城跡 整備基本計画 概要版一」、2023年

※2 文章について引用・参考文献 リーフレット「国指定史跡 米子城跡」

江尾との繋がり～清洞寺～



米子城本丸跡の天守があったとされる所からは、米子の街並みをよく見ることができます。



米子城跡の見学をした後、江美城を探る会は錦公園近くにある清洞寺跡に行きました。

実はこの清洞寺は、荒尾氏の家臣である村河氏が江尾の清洞寺を移してきたといわれているのです。現在江尾の清洞寺跡は、お市さんの五輪塔の下にあります。

荒尾氏・・・池田光仲が鳥取藩主になった頃、米子城を預かることになったのが鳥取藩主席家老である荒尾成利です。代々荒尾氏が米子城を治めていました。

この文章については下記を参考

リーフレット「国指定史跡 米子城跡」・

山本恭子、深原由子編「令和元年度米子市立山陰歴史館企画展

『米子城にまつわる人々』 出品資料抜粋」米子市立山陰歴史館、2019年

～米子城の歩み～

米子城の始まりは、山名宗之が砦として飯山に建てたこととされています。米子城は「本格的な近世城郭」といわれているが、これは西伯耆領主の吉川広家の頃から築城が始まったようです。吉川氏は関ヶ原の戦いの時西軍側にいたが負けたために岩国へ移され、城の完成を見ることはできませんでした。その後中村一忠が伯耆国の領主になり完成させます。一忠は11歳という若さで米子に移されたため、家老の横田内膳が築城や町づくり等に力を入れました。（江府町歴史民俗資料館に横田内膳の裁許状があるが、彼の政治力がわかる貴重な資料です。）これが一忠の側近が嫉妬する原因となり、横田内膳は殺されてしまいます。

（「米子城騒動」）後に一忠は20歳で急死するが、世継ぎがいなかったために中村氏は絶えてしまったのです。城主は元美濃国黒野城主の加藤貞泰がなり、その後池田由之（鳥取藩主の池田光政の一門）が城を預かることになるが、後に鳥取藩の主席家老である荒尾成利から11代に亘って荒尾氏が治めるのです。明治時代に入ると米子城は士族に売り渡され、建物は壊されてしまいました。

文章について引用・参考文献 リーフレット「国指定史跡 米子城跡」・山本恭子、深原由子編「令和元年度米子市立山陰歴史館企画展 『米子城にまつわる人々』 出品資料抜粋」米子市立山陰歴史館、2019年

「江美城を探る会」11月講座予定

11月11日（土）

講座内容 ガイド

尾高城跡見学：高橋先生
上淀廃寺跡見学：仲田先生
（外での活動になります）



©うえもんくん